

【海外学会報告】

国際フランコフォニー学会 第24回世界大会 参加報告 Conseil International d'Études Francophones (CIÉF), 24^e Congrès mondial 27 juin - 4 juillet 2010, Montréal

2010年6月27日から7月4日まで、モントリオールのデルタ・セントラルホテルにおいて国際フランコフォニー学会（CIÉF）第24回世界大会が開かれた。AJEQ 会員からは、小畑精和と小倉和子が参加した。

アカデミア出身の作家 Antonine Maillet による感動的なスピーチで幕開けた大会は、7日間にわたって90以上のセッションに分かれ、300名近い研究者たちの発表が行われた大規模なものだった。テーマは、移民文学を初めとして、フランス語圏各地域の文学、それらにおける女性作家やアイデンティティ形成の問題、文学と映像、旅行文学、言語学、翻訳、フランス語教育……とじつに多岐にわたっていた。また、研究発表の他にも、ケベックの推理小説に関するシンポジウムや、作家とのランコントル、映画上映、ジャズの生演奏や詩の朗読会など、盛り沢山の催しが用意されていた。

まず7月1日午後の第4セッション < Sur les écrivains québécois d'origine asiatique > (Président : François DUMONT, Université Laval) で、小畑が「*Le Poids des secrets d'Aki Shimazaki : Histoire officielle et souvenir individuel*」という研究発表を行った。小畑はアキ・シマザキの『秘密の重み』5部作の根底に横たわる、制度としての歴史と登場人物たちが抱える個人の秘密との関わりに注目し、そこから抑圧的な（特に女性にとって）日本社会にたいするシマザキの批判的な視線を引き出した。また、俳句を思わせる彼女の簡潔な文体や、ケベック社会が彼女の作品を評価する所以についても考察した。

次に7月2日午前の第3セッション < Regards asiatiques sur Anne Hébert > (Présidente : Patricia GODBOUT, Université de Sherbrooke) で、小倉が「*Paysages, désir et délivrance dans Les Fous de Bassan d'Anne Hébert*」と題された発表を行った。小倉は文学研究（とくにフランスやフランス語圏の詩）において「風景」回帰が顕著であることを指摘したうえで、アンヌ・エベールの『シロカツオドリ』において、ガスペ半島に想を得た広大な海景が登場人物の心性に及ぼす影響を、海岸、海鳥、風・嵐、沖などの地理学的ないしは

環境的要素を分析しながら考察した。

これらのセッションはラヴァル大学、モントリオール大学、シェルブルック大学の研究者たちの応援を得て日・韓両ケベック学会員が共催したもので、それぞれの報告後には活発な意見交換が行われ、一昨年来の両学会の交流がモントリオールに場を移して熱く繰り広げられた有意義なものだった。

さらに、コーヒータイムやカクテルパーティーでは、ケベック在住の研究者との交流はもとより、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカなど世界各地からの参加者との思いがけない出会いもあり、フランス語圏の広がりを実感した大会であった。

2011年度の CIÉF 大会はフランス（エクス・アン・プロヴァンス）で開催されるそうである。AJEQ が中心となってセッションを組んで参加することを検討したい。

小畑精和／小倉和子